IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第22回会合発言録

2022年8月1日

【加藤】　皆さんこんにちは。すみません、ぎりぎりになりまして、加藤です。聞こえておりますか。

【山崎】　はい、聞こえております、山崎です。

【加藤】　ありがとうございます。今、18人御参加で、飯田様もいらっしゃいますね。名前がすぐ出てきたので、ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、早速進めさせていただきたいと思います。

今日、山崎さんのほうからアジェンダ案をいつものように送っていただいて、アジェンダに幾つかちょうど今、見せていただいているようにコメントもいただいておりますが、取りあえずこのアジェンダに沿って今、進めさせていただきたいと思います。

山崎さん、今日は飯田様、柴田様のお名前拝見できますが、河内さんもいらっしゃっていますかね。

【山崎】　まだお見えになっていらっしゃらないみたいですけど。

【加藤】　そうですか。

【山崎】　今日は参加なさるという御連絡はいただきました。

【加藤】　そうですか、ありがとうございます。

それじゃあまず、日本政府からの準備状況、進捗報告というものから進めさせていただきたいと思います。飯田様、よろしいでしょうか。よろしくお願いします。

【総務省加藤】　すみません、総務省でございます。ちょっと今、飯田という名前で入っているんですけども、ちょっと遅れての参加になりそうです。

【加藤】　そうですか、失礼しました。

【総務省加藤】　申し訳ございません。

【加藤】　そうですよね、30分ぐらい遅れるというのを事前に伺っていたんですが、名前拝見したものですから、ごめんなさい。

【総務省加藤】　すみません。

【加藤】　じゃあ30分ほどということで、スケジュールどおりで……。

【山崎】　　18時半以降の御参加と伺ったんですけど、ご報告いただけそうでしょうか。

【総務省加藤】　ちょっとどれぐらいで戻ってこれるかというのが、少なくともこの会合の中では戻ってこれそうな気はしていますので、また、戻ってきましたらチャットか何かで御連絡させていただくという形でよろしいでしょうか。

【加藤】　　分かりました。もし、一言でもございましたら、今の時点でいかがですか。何かの、前回実行委員会なり、何か具体的な活動を御検討だということですが、その辺動きございますか。――特にないですか。

柴田様のほうからも、データ通信課のほうは特にございますか。

【柴田】　　ちょっとデータ通信課の方で代わって御説明できることがなくて恐縮でございます。

【加藤】　　分かりました。それじゃあ飯田様のほうが御出席、いらしていただいた段階で日本政府の状況報告を受けるということで、次に進めたいと思います。

同じようにMAGの情報ということで河内さんおいでになりますか。

【河内】　　すみません、ちょっと待っていただけますか。

【加藤】　　分かりました。ちょっと待ってというのは、何分か待つ感じですか、それとも瞬間的な話ですか。

その後ということでいうと、上村先生とか堀田さんは……。

【上村】　　私はいます。上村です。

【加藤】　　上村先生いらっしゃいますね。ちょっと河内さんが、ちょっとの時間がどれぐらいかというのが分からないままなので、次に飛んでいいのかどうしようかという感じですけど。

【上村】　　じゃあ、プログラム委員会は、そんなに大きなことは今回ないと思うので、私が話せるところを先に……。

【加藤】　　よろしくお願いします。

【上村】　　今、画面に映していただいているのがこの間、この間というのは7月20日、プログラム委員会を開催したときのアジェンダとその結果を記載したものです。タスクリストの確認は事務的なことなので割愛します。それから、私が話せるのは審査の結果以外のことなので、審査の結果については、堀田さんがジョインされてからお願いするのがいいと思います。

前回は、企画セッションと称していたもの、つまり、活発化チームの名前で企画をするセッションにどんなものをするかということが話し合いのメインでした。ただ、全体テーマを拾うメインセッション的なものについては、公募セッションのテーマセッションがどういう

ものになるかによってテーマの調整が必要であろうということで、前回のプログラム委員会では、この点についてはあまり話をしませんでした。

ということで、もう一つの企画セッションである、IGFとは何であるか、あるいはIGFや関連の活動に新しく参加する形に向けたセッションをどう構成するかということの議論を持ちました。こちらについてご報告というかお知らせをします。

前々回の活発化チームだったかの会合で、企画セッションには全体テーマを拾うものとそういったIGFのことをチュートリアル的に説明するようなセッションと2つ設けるという話をさせていただきまして、その内容について少し意見交換をしたわけです。2023年にUNのIGFが日本に来るということで、その存在感をアピールするとか、そこに参加する人たちを増やそうというような意図で、まず、このセッションを位置づけようということになりました。

ついては、あまり居丈高にというか、上段からインターネットガバナンスとは、という話をするよりは、もう少し身近な話題とか接点を見出しやすいテーマで話をするほうがいいのではないかという話が前提としてありました。とはいえ、IGFとはどういう場であるかとか、これまでどうだったか、それからこれから2023年についてどうなるかという話を触れないわけにはいかないので、例えばということで、昨年2021年開催のIGFの内容について前村さんにブリーフィング的なことを話していただき、2022年についてどうなりそうであるかということを河内さんにお話しいただき、それから、ご本人がいないところでお名前を出して議論をしてしまいましたが、来年の23年の動向については、ショートステイというかホスト国として、ホスト国を代表してというのか、飯田さんにIGF 2023についてお話をしていただくのはどうかという話をしました。

内容についてはまだ、今、お話しした以上のものは検討していないわけですけれども、入り口になるようなセッションを、恐らく2日目の最後になるのか頭になるのか分かりませんが2日目に、そういったセッションをいろいろと考えています。企画セッションについては以上です。

それから、審査関連については先ほど、堀田さんに詳しくご報告いただこうと思うと申し上げましたが、メーリングリストで、どういうセッションでどういう内容でどういう提案者であるかということはお知らせをしております。一応名前だけ、テーマだけ言うと、1つがオンライン海賊版の現状と対策の現在地点です。それから2つ目が、日本のインターネットは大丈夫か。特に災害や障害時への対応について議論するというものです。3つ目が、電気通信事業法の改正とインターネットガバナンスということで、情報通信政策の本流を扱うテーマが提案されています。4つ目が、スプリンターネットと題して、インターネットの分断をめぐる議論について扱うという内容ということです。

こういった4つの提案がなされて、日本インターネットガバナンスフォーラム2022で、ご発表というか登壇の場を持っていただこうということになっています。今後のフォローアッ

プについて、それから今回の審査を通して得た反省点などについても堀田さんに入っていただき次第、お知らせいただこうと、お話しいただこうと思っています。

それからもう一つ、大切なロジ関連です。今回ハイブリッドの会場でも開催し、その内容をネットで配信するというような構成の実施を考えています。ただ、まずこういうコロナの状況で、割と丁寧なリスク管理をしながら開催計画を立てていく必要があるわけです。ということで、もう会議の場で大勢が首を突き合わせて議論するというような性格ではなくて、この分野のリスク管理とか運営の経験がおありのJPNICとJAIPAの方にプログラム委員会に入っていただいて、それで素案をつくっていただき、細かいことを進めていただくということにしました。なので、この点については、少しエキスパートグループにロジの準備について任せるということになったというふうにご理解をいただければと思います。

それから、外部への働きかけについては、動向共有、情報共有という感じでした。以前、立石様からこの場でもお話があったかもしれませんけれども、「Terms and conditions may apply」という英語の映画を翻訳する件についてお知らせをいただきました。例えばこういうものを組み合わせると、ユースとか、あるいはIGFの裾野を広げる内容として使えるのではないかという話がありました。

ただ、テクニカルというのは、技術的という意味ではなくて、権利の問題とか、どう使うかとか、そういうテクニカルの問題については未定のところもありますけれども、うまくこのタイミングで、何か組み合わせられるのであれば、外部への働きかけ、特にユースとか、この分野になじみのない方とかというのがフックになると期待をするものです。

あとは、広報先とタイミングについてはちょっと飛ばしますけれども、2023の実行委員会との連携というのをどのタイミングでどういう形で進められるかというのが気になるねという話をしました。これについては、相手方のあることなので、我々が現時点でこうすべきとかこうしたいとかまだ言える段階ではありませんけれども、関係各位におかれては何とぞお忘れなくという感じの議論をしました、ということぐらいでしょうか。

取りあえず私からは以上です。

【加藤】　どうもありがとうございました。上村先生に御質問とかコメントとかございますか。皆さんいかがでしょうか。

詳しくは堀田さんから伺うとして、4件、先ほどお題目だけ伺いましたが、今の応募内容、内容的には、日本語ベースなんですかね、このロジとか何かに、前回までの活発化チームの会合でも議論があったと思いますが、日本語ベースでやれる感じですか。

【上村】　はい、登壇者のお名前を見ると日本語ベースだろうと思われますけど、そうか、どの言語で発表するつもりか報告するか、申告するところがありましたね。いずれも日本語ということになっているようです。

【加藤】　　分かりました。いかがでしょうか、皆さんご質問、ご意見ございますでしょうか。

【上村】　　本田さんがチャットで書き込まれたことについて、ちょっと理解できないんですけど、まず、これ議事録ではなくて、今日報告した内容について意見があったということだと思うんですけど、映画の話のところに記録に詳述しておいていただけないでしょうかという。切り取って編集したクリップを流すほうが実現しやすいと思います、というコメントがあるんですけど、これちょっと何をすればいいかよく分からないんですけど、細かい話は多分プログラム委員会ですることになると思うのですが、いかがでしょう。

【加藤】　　本田さん、御説明いただけますか。これ、どういうことか……。

【山崎】　　立石さんが手を挙げていらっしゃいますが。

【加藤】　　分かりました、じゃあまず、立石さんから。

【立石】　　多分、私が説明しておいたほうがいいと思うので。これ、映画をやる、やらないという話なんですけど、ちょっとこれ切り取って編集したクリップが流せるかどうかは、もともとのところに聞いてみないと分からないです、すみません。できるんであれば、多分これ80分ぐらいで長いという話だったので、全部やるのはしんどいんじゃないかという話がたしかあったと思うんですけど、いわゆる、ユーザー規約を読みましたかというやつなんですけど、その映画、アメリカで作ったちょっと古い映画なんですが、それを翻訳してやるやらないという話、今動いていますが、そこで、この本田さんがおっしゃっているところについては、クリップして流せるかどうかは多分、映画はそのもともとのところに聞いてみないと分からないというので聞いておくようにします。今一応、動きはしてみています。

以上です。それでお答えになります。

【加藤】　　それじゃあ、プログラム委員会でハンドルいただけるということですね。それで、こうなりましたというのを後でご報告いただくと。上村先生、それでよろしいでしょうか。

【上村】　　はい、今の件については以上です。ほかの方の準備がまだ整ってないということだと、企画セッションのもう一つ、その全体テーマの拾うセッションについては、私が、プログラム委員会の場で、幾つかアイデアを出してくださった方にちょっとヒアリングを遅まきながら始めて、少しアイデアを膨らませるというフェーズになっています。

ただ、チュートリアル的な内容のセッションを設けるということを考えると、そことの平仄がいいものにしたほうがよいのではないかという印象を持っています。どういうテーマになるにしても、裾野を広げるための話題にできるということを重視しようと思っています。ちょっと個人的なステートメントも入って、そんなふうに考えております。

以上です。

【加藤】　　ありがとうございます。ほか御意見、御質問、いかがでしょうか。

特になければ、堀田さんはまだおいでになってないですか。高松さんは、さっきちょっと、何時頃というのを何か伺ったような気がしたんですが、まだおいでにならない予定ですか。

【高松】　　すみません、高松です。17時半頃だというふうに聞いておりまして、すみません、まだ……。

【加藤】　　分かりました。高松さんから伺って……、それともやっぱり堀田さんを待ったほうがよろしいですか。

【高松】　　そう思います。

【加藤】　　分かりました。じゃあ、堀田さん待たせていただくということで、プログラム委員会関係、これで取りあえずよろしいですか。堀田さんからの審査結果等、ご説明いただくのは後でということで、次に移りたいと思いますが。

【上村】　　すみません、それではもう一つ、形式的なことですけれども、本格的にそろそろロジの事を進めるというフェーズに入りましたので、JPNICの前村さん、山崎さん、既にプログラム委員会にメンバーとしてはいるんですけど、JAIPAからも木村さんや平さんや、名前ど忘れした……。

【加藤】　　立石さんですか。

【上村】　　いや、立石さんもともと入っていますけど。

【加藤】　　そうですよね。

【上村】　　3名の方に追加で入ってもらうことにしたということで……。

【加藤】　　もう決まったんですね。

【上村】　　ご報告です。

【加藤】　　ありがとうございます。

それじゃあ、プログラム委員会関係はこれで、取りあえず次に移らせていただくとして、河内さんから参加しましたというご連絡があったので、河内さん、MAGのほうのご報告お願いできますでしょうか。

【河内】　　MAGの会議がジュネーブで7月の6から8日に行われまして、参加してきました。コロナのせいで、私はMAGメンバー今年からなんですけど、ほかのMAGメンバーの人たちも、バーチャルじゃなくてこの物理的な会議をやったのが2年ぶりぐらいらしくて。結構、ほとんどのMAGメンバーが参加していたと思います。国際機関の人とかそういう人たちを含めて50人ぐらいいたので、結構大勢の人たちが集まりました。

いろいろトピックはあったんですけど、一番重要って言えるのが、ワークショップを選ぶというか、ちょっと前回の会議のとき、山崎さんに、ちょっと間違っていましたって、直しておいてくださいってお願いしたんですけど、結局最終的には、ちゃんとした提案として出されたのは246件あったうち、何かエチオピアのアジスアベバの会場がすごい狭いらしくて、

部屋が幾つかしかないという理由で、ワークショップが75個しかできないということで、246のワークショップの提案から75個を選ぶという作業をやりました。

テーマ別に分けると、人権とかコネクティビティーとかそういうのがテーマになっているのは88件、それからセキュリティが49件、それからAIとかの先端技術に関するものは46件、それからデータガバナンスが41件、それとインターネットの断片化というテーマが22件あって、この出された提案の、ほぼほぼその比率で75件を選ぶという作業をほぼ2日目の午前中、昼ぐらいから3日目の午後ぐらい、午前中いっぱいぐらいまでずっとその議論とかをしていました。それで何とかワークショップの選択はそれで終了しました。

それ以外にも、メインセッションについての話とか、それから、もう一つ大きな話題は、国連がGlobal Digital Compactという、来年の9月に行う予定の未来サミットというのが、来年秋に行われる予定になっていて、そこで、デジタルに関する国連の原則みたいなものを採択する予定になっていて、それをGlobal Digital Compactと呼んでいて、それについての意見を出す締切りが9月の末になっていて、それについて議論をしていました。

これがそのデジタルの話なのに、IGFが行われるのが11月末なので、今年9月末の締切りに間に合わないのはどういう……、それはどうしてもその締切りじゃないと駄目なのかという議論があって、それは事務局によると、一応9月末という締切りになっているけど、それは結構フレキシビリティーがあるから、11月末、12月初めにある今年のIGFの結果も反映できるはずだというふうに事務局は説明していました。

それであと……。

【加藤】　これはIGFと内容的にはどう関係するんですか。

【河内】　IGFは国連の傘下にあるって言っちゃっていいんですかね、ちょっとその辺ちゃんと分かってないんですけど、このGlobal Digital Compactは本当に国連が発表するプリンシプル、これデジタルじゃないプリンシプルを国連って既に出していると思うんです、ちょっと忘れちゃいましたけど。それのデジタル版を出すというふうになっていて、なので、国連が関係する機関で、デジタルに関するものといえばIGFが一番近いので、やっぱりIGFとして、ちゃんと何かそれに貢献するべきじゃないかという議論がありました。実はメーリングリストでも、今この9月末の締切りに向けて、IGFのMAGのメンバーとしての意見を出しましょうということで、今、メーリングリストでいろいろやり取り、意見交換をしているところではあります。

それとは別に、今年のIGFが11月末、12月に行われるので、その結果も反映してもらえたらいいんじゃないかという議論をしていました。そうそう、この山崎さんがチャットに書いている、Global Compactというデジタルじゃないやつは、以前に発表されていて、それのデジタル版を発表するということになっているそうです。

そんな感じですね。次回ですけども、一応9月の末にまた、ジュネーブで、3回目のオープンコンサルテーションがある予定なんですけど、全てバーチャルになるか、ハイブリッドになるかはまだ未定ということになっています。

あと、アジスアベバの今年の11月末のIGF本体なんですけど、やっぱり、特に先進国の人たちからアジスアベバのセキュリティへの懸念というのが強くて、それは大丈夫なのかという質問が出ていまして、実は会議にはエチオピアのデジタル担当の大臣みたいな女性の方が参加されていて、その方が、アジスアベバは全然大丈夫で、ちゃんとセキュリティもしっかりするので大丈夫と一生懸命言っていました。

ということで、何かホームページがなかなか、もう出ているのかな。ついこの間まで全然なかったと思うんですね。ホームページもなくて、準備がすごく遅れていて、大丈夫なのかという懸念がすごい強かったんですけど、ちゃんとやるからということを事務局も言っているので、多分行われることにはなるんじゃないかという感じでした。

簡単ですが、以上です。

【加藤】　今、まだあまりロジ回りの発表＜音声聞き取り不能＞、ウェブサイトも最近、私見たときにはまだ、このアジスアベバの詳しい説明みたいのはなかったんですが、会場は国連の会場でやると。

【河内】　そうですね。

【加藤】　ただ、それ以外については、何も発表はなかったんですかね。

【河内】　そうですね、これ今映してもらっているのは、IGFのページの中に書いてあるだけですよね。

【加藤】　そうですよね。普通はこれ以外に、ローカルホストでいろいろと便利な情報とか何とかいう案内が早いうちにあるんですけどね。

【河内】　もう、すぐ、今準備中だから間もなくオープンするとかいうのをずっと何か月も言っているような気がするんですけど、なのでちょっと怪しいですが、一応大臣は参加していて、それに一緒に何人か、エチオピアから参加していましたけど。ちょっと不安ではありますが。

【加藤】　ありがとうございます。皆さんご質問とか何かございますか。河内さんから生の情報をいただいたので、いろいろと分からないことも多いかと思いますけれども、いかがでしょうか。どうぞ。

【河内】　すみません、大したことないです。飯田さんいらっしゃらないのであれですけど、やっぱり来年の話はMAGのメンバーのほかの方々も結構関心を持ってくれていて、私が自己紹介のときに、来年東京でやるから待っている、皆さん来てくださいねという話をしたら、ある人は本当に東京でやるのかと、地方の東京以外のまちじゃなくて東京でやるのかとか聞かれたりとか、準備はどうなっているのかとかすごい聞かれたんですけど、私その

辺はっきり言って全くタッチしてないので分からなくて、なのでその辺は飯田さん含め総務省の方々とも情報交換とかこれからできたらいいかなと思っています。

それと……、もう1個言おうと思ってて、ちょっと忘れちゃったのでいいです、また後で思い出したら言います。

【加藤】　山崎さんから手が挙がっているので、まず山崎さんからお願いします。

【山崎】　総務省の方から手が挙がっているので多分同じことだと思いますので、私は結構です。

【加藤】　同じことなんですか、総務省の方、飯田さんのお名前の方お願いします。

【総務省加藤】 すみません、総務省の国際戦略局の加藤と申します。飯田の下で、つい2週間ほど前に着任しまして……。

【加藤】　お疲れ様です。

【総務省加藤】 よろしくお願いします。今お話のあった件なんですけども、東京ではございませんで、今ちょっと地方都市3か所ということで検討してございます。9月の頭にIGFの国連の視察団がその会場を見に来るということが決まっておりますので、飯田が戻ってきましたらその状況も含めてシェアさせていただきたいと思いますけれども、現状はそのようになっております。

【河内】　千葉とか横浜とかじゃなくてもう全然もっと違う街という……。

【総務省加藤】 違う街でございますので……。

【河内】　あっ、そうなんだ。みんなに、東京近郊じゃないかなとか勝手なこと言っちゃいました……。

それで、IGFの事務局長になるのかな、チャンゲタイさんだっけ、彼はやっぱり9月初めに東京に来るって言っていました。なので来るはずです。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。ほかご質問ございますか。

この関連で思い出してしまうんですけど、ブースを申し込むという件は何か動いていますでしょうかね。

【河内】　ブースを申し込むとおっしゃっていたのはあれですよね、総務省さん、飯田さんじゃなかったでしたっけ。

【加藤】　飯田さんとあと立石さんからもそういうお話があったと思いますが、ちょっと、すぐご返事がなければ、上村先生が手を挙げられたのでお願いします。

【上村】　　大変野次馬的な質問になるかもしれませんけど、250件、240件でしたっけ、そこから70件選ぶというのは、どう選んだのですか。単純に、セレクションしたのかそれともマージしたりとかそういうのがあったんでしょうか。

【河内】　　マージは……、これ何か全く同じテーマを扱っているものもあって、ただ、スピーカーはもちろん主催するというかオーガナイザーが違ったりとかしていて、我々その選択者側としては、できるだけみんな一生懸命提案出してくれているから取り入れてあげたいので、マージすればその分1件、浮くというか、なので、あまり深く考えずにこれとこれマージしたらいいんじゃない、これとこれ何か関連しているから一緒にしたらいいじゃんとか、勝手にみんなあの外国人の人たち言っていましたけど、でも、多分これもし、例えば自分が何かを提案していてほかと一緒にやれと言われたら、結構スピーカーも違うし、何か扱うテーマは少し近くても何というか、そのアプローチの仕方が違うとか考え方がもともと違うとか、いろいろあって大変だから、一つのセッションの中で2つ分科会するみたいなそういうのしか、そういうのだったら可能なのかなとか、私は勝手に自分で思いながら、でもみんなそれでいいみたいに言って議論していたので、ただ結局最終的には、マージするものはゼロじゃないかもしれないですけど、あんまりないんじゃないかと思います。

選択の方法としては、一応テーマごとに40人のMAGメンバーを5つのグループに分けて、それぞれもともとそのドキュメント上で審査してそれを提出してあったんです。それを事務局が全部集計した結果、これは何ポイント、何ポイントでどれは何ポイントとかと、あとコメントも全部まとめてあったりとかして、その資料を基にみんなで議論したんですけど、そのグループの中でリモートの人もゼロじゃなかったので、そこにいる人とリモートの人と一緒になってこの1か所で集まって、これはああだこうだっていろいろ議論した上で、一応、その採点の集計でテーマごとに、上からまず何件はこのテーマ何件入れていいよというのがあったので、例えば20件なら20件までのところはオーケーだけど、そこまで一応上からチェックして、本当にそれでいいかというのを一応1件ずつチェックしていって、その20件の前後のところとか、あと20件よりも下のところも一応ざっと見て、本当にこれ落としちゃっていいのかとか、結構時間かけてみんなで議論していました。

大変です。という、そんな感じでちょっと理解、ちゃんとその雰囲気をお伝えできているか分からないんですけど。

【加藤】　　お疲れさまでした。ありがとうございます。

山崎さんの手がさっき挙がっていましたけど、まだ……。

【山崎】　　すみません、いろいろ作業をばたばたしているうちに何を言おうとしたのか忘れてしまいましたので、手を下ろしました。

【加藤】　　分かりました。

河内さん、ありがとうございます。かなりリアルに大変だった様子がよく伝わりましたけど、これ75件か79件とさっきの画面には出ていましたけど、これ、実際はそうするとブレークアウトの部屋は4部屋ぐらいしかないというイメージなんですか。

【河内】　　そうです、幾つって言ったかな、5つか6つって言ってたような気がしたんです。

【加藤】　　普通5つあると4日間、かなり使うと、十幾つか、20件ぐらい一つの部屋でできそうな気がするので、それにしてもせいぜい5部屋ぐらいですかね……。

【河内】　　それぐらいで1桁だったことは確かですね。それしかないからもうマックス75だみたいなことを言う、75だから……とか言っていました。

【加藤】　　例年、10部屋ぐらいあることが多いので、その半分かそれ以下になっているってイメージですかね、今回は。

【河内】　　去年は200以上セッションあったので……。

【加藤】　　そうですよね。

【河内】　　その半分以下ですよね。

【加藤】　　ですよね。

あと、やり方として、メインセッションにみんな集まってブレークアウトの期間は4日間のうち、かなり限定的に使うとかその辺の割り振りみたいなのはあるんでしょうかね。数を決めるときに、全体の時間割の中でこの部分はブレークアウトに、セッション中心でやりますという、そういう割り振りがあると思うんですけれども、何かそんな話はありましたですか。

【河内】　　いや、その辺は、私は直接全然タッチしてなくて、多分事務局が毎年、例えば1日目の朝なんか……。

【加藤】　　全体セッションとかね。

【河内】　　みたいな、何かそういうふうに、勝手にというかもう既にそういう割り振りをして多分、あと部屋の数とかを考えた上でしていたんじゃないかと思うので、もう七十何件というのを数字で出されて、そこは我々が議論した結果ではないので……。

【加藤】　　ということは事前、今回、これが決まりましたという発表があったときに、何かもう少し追加されるかもしれないみたいなニュアンスで読めたんですが、もうこれも最終これで決定って感じですか。

【河内】　　いや、1件や2件だったら押し込めないことはないかなという感じはしますけど、でももう結構、パンパンというかMaxの数で決めたはずなので、そんなには変えられないんじゃないかと。どれかが、やっぱりやめるとかいう人がいれば抜けたりすれば別ですけどね。

【加藤】　　分かりました。

すみません、山崎さん、もう一度手を挙げていただいたのでお願いします。

【山崎】　　思い出しましたので。先ほどブースの話が出たかと思いますけども、別件で飯田さんと、たしか今日、御発表いただけるかというやり取りだったと思いますけども、その際に、何かブースの申込みをしておきます的なことをおっしゃっていたので、そのとおり、先週やっていただいていたのであれば、ぎりぎり間に合ったんじゃないかと思います。

以上です。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。

飯田さんのところ、これは加藤さんですか、よろしくお願いします。

【総務省加藤】　すみません、ブースの件ですけども、飯田から登録はしておいてくれということを言われて、先週登録はしておりますので、締切り前には一応そこはやっておいたということかと思います。すみません、ちょっと中身のほうはフォローできておりませんで、ひとまず登録自体は進んでいるということかなと思っています。

【加藤】　　ありがとうございました。その関係で河内さん、これもプログラム全体の流れ、当日の流れなんですが、例えば日本政府から次回の、何かこのブースでだけじゃなくて全体セッションとか何かで、日本政府なり日本代表が、こんなのが次回ですよみたいなことを説明する時間とか何かそんなのは議論ありましたか。

【河内】　　いや、全然そういうのは、私が出さなきゃいけなかったのか分からないんですけど、全然その、要するに実際のプログラムが、いつどんなセッションをとか、そういう話は全くなくて、単に幾つワークショップを選んで、みたいなことしかなかったので、すみません、これからあるのかちょっと分からないですけど。

【加藤】　　いや、どこかでそれ多分MAGが、全体の流れはこうで、メインセッションは今回こういう部分に押し込んで、そのときはこことここ、というのも、一応MAGの意見が反映されるのかなと思うんですけれども、まだそこまでいってないんですかね。

【河内】　　かもしれないです。すみません、私分からなくて。ただ、メインセッションについては、テーマが5つあってそれぞれのテーマに関するメインセッションを、そのオーガナイズするのを何かサポートする人の募集はしていましたけども、まだ、それの段階かもしれません。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。ほか御質問等ございますか。

なければあれですが、ありがとうございます。大分、エチオピアの状況が見えてきたので、引き続きよろしくお願いします。

それとぜひ、9月にチャンゲタイ以下、来るのであれば、河内さんもぜひその辺のところもフォローしていただいて、日本からのフィードバックの重要なお役目もMAGとしてお持ちだと思いますので、よろしくお願いします。

【河内】　東京じゃないとすると、東京に来ないで直接どこか別のまちに行っちゃうかもしれないですね。すみません。

【加藤】　それじゃあ、次に移らせていただきたいと思います。河内さんありがとうございました。

まだ堀田さん、飯田さんいらっしゃらないとしたら、次、秋イベント、プログラム委員会が終わったので、NRIの組織枠組みについて、前村さんいらっしゃいますか。

【前村】　前村です。説明することは2点です。1点はまず、前回の活発化チーム21回のときに、組織化活動の御報告として差し上げました資料をちょっと修正して、これで7月11日、御了解いただいたというふうなことにさせていただきたいと思っています。

一番のポイントは、今見えているところの一番下の黒ポチで、「そこで」というところの次にくる丸ポチです。「活発化チームとしての運営団体設立に向けた、設立発起人候補への働きかけは、IGF 2023実行委員会組成と協調して進める」というふうな言い方にしたいというものです。

これ、もともとは、「一旦休止し」というのがその組織化も後回しにしちゃうというふうな捉えられ方をして、ちょっと皆さんに混乱を招いてしまったような気がするんですけども、実際には、実行委員会にお声がけする方々と、運営団体の設立ということも一緒にやっていきますからね、という形で進めるということですので、協調して進めるというふうな報告をしたということでご承知いただければいいなと思って、こういう会合後修正をお示しするものであります。まず1点はこちらです。

それと、組織化のほうのアクティビティーはしたがって、IGF2023実行委員会の組成の検討という方向と協調して進めているので、これ、できれば飯田さんがお出ましになった後に、回すというのか飯田さんから御報告していただくのがいいんじゃないのかなと思っております。もしよろしければそういうふうにさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【加藤】　分かりました。ありがとうございます。ご質問、ご意見ございますか。

前村さんのご趣旨は、前回、この場でも議論があった、組織化の話を今まで進んできたことと、今度23年、どうやって実行委員会を立ち上げて、総務省様のほうで進めていただくか、それに対してどうやって協力するかって話を並行してやるということかなというふうに思います。

前村さん、この発起人候補への働きを含めて、その実行委員会がスタートしたらどういうふうにやるかというその辺の準備状況とかも、少しは何かございますか。

【前村】　その辺の準備状況、ちょっと今日は申し上げられることはないんですけども、働きかけ先としては、これは加藤さんから経団連さんのほうに働きかけをしていただいて、なかなかいい感触をいただいたということは、これ、加藤さんのほうからご報告していただいてもいいぐらいで、これは非常に大きなポイントかなというふうに思っております。

また、立石さんのほうからは、消費者セグメントや、インターネットの中の各種団体、公正利用を進めるようなセグメントの団体の方々にもお声がけをしていただいていまして、こちらのほうも進み具合は、いい進捗が得られているんじゃないのかなと思います。

したがって、実行委員会のほうの立ち上がりが働きかけられたら、すぐにでも反応していただけるような状態にはなっているんじゃないのかなというふうに思っています。というわけで、それがなった後にどうしていくのかというのはちょっと、それこそこれ総務省さんがどういうふうにお考えかというところのほうが重要だと思っていまして、今日ご報告できることはちょっとないという感じです。

以上、状況のご説明でございました。

【加藤】　ありがとうございます。いかがでしょうか、皆さんご質問、特にございませんか。

今の前村さんのポイントは、まずは、2023年実行委員会のところに書いてある、総務省さんが、それをどういう立てつけでやられるかということを見据えながら、それと、今までの組織化という話をうまく協調しながら進める。そのために、総務省さんのほうのお考えをまず伺いたいという形で、今日も進めたいというご趣旨だと思います。よろしいでしょうか。

【前村】　ありがとうございます。

【加藤】　それじゃあ、組織化のご報告はこれで終わりにして、ユース活動、いかがでしょうか。山崎さん、大分煮詰まってきたように思いますが、よろしくお願いします。

【山崎】　今日は資料をお示しできると思いますけども、その前に、このチームに前から加わっていらっしゃる上田さんが、この前回の資料をご覧になられてコメントをいただいたんで、そちらを先に発表いただいたほうがいいかなと思ったんですけど、上田さん、今、ご説明いただけたりします？

【上田】　大丈夫です。

【山崎】　ではよろしくお願いします。

【上田】　皆様ご無沙汰しております、NECの上田です。ちょっと、いろいろ事情があってあまり積極的に参加できてなくて申し訳ありませんというふうなところなんですけども、以前、皆様がご議論いただいていたというふうなユース活動の話を、こんな状況だよというのを山崎さんに教えていただいて、以前から私が、ちょっと違う文脈でユースのことをやっていたりとか、あと年齢的にも30手前なのでユースというところで、僭越ながら少しコメントをさせていただければなと思って、山崎さんにコンタクトを取らせていただいて、こう

いうふうに資料を作ってみましたというふうなところです。私個人的な考えが結構多いですし、皆様の議論を盛り上げるためのたたき台みたいなところで捉えていただければなと思っております。

前回、ご議論をいただいた、タブのもう一つ左のやつですかね、こちらを拝見して、私がちょっと感じたところとしては、大分玄人向けの資料だなというふうに思っていました。恐らく、IGFに入って大分活動されている方とかであれば何となく分かるというふうなところなのかなと思ったんですけども、もうちょっとかみ砕いて、ユースというものが何で活動しなければいけないのかとか、あるいはどういうふうなことを目標としてやっていったらいいのか、であるとか、そういうところを私なりにちょっと考えてみましたというのが今回作ってきた資料です。

1つ右のタグに戻っていただいて、私個人的に思う、なぜユース世代がこういうIGFにそもそも参画しなければいけないのかとかいう、IGFになぜこういう項目があるのかみたいなところなんですけども、ユース世代は生まれながらにしてインターネットがあったり、デジタルネーティブの世代であるというふうなところで、当たり前に使っているインターネットというのは本当に何が当たり前なのかというのは、もう一度見直す時期に来ておりますし、どういうふうに成り立ってどんな課題があって、どんな配慮をする必要があるのか。今、スプリンターネットであったりとか、あるいは漫画村の問題であったりとか、そういう課題とかに関しても、当たり前にインターネットを使っているユースが議論をしていくべきなんじゃないかというふうなところで、これからの社会をつくっていくユースというものが重要というところで、IGFにユースの枠があるのかなというふうに考えています。

そういう目的がある中で、じゃあどこを目指してユースが活動するべきなのかというふうなところは、ここの真ん中辺りに書いてあるもので、日本のユースが、ユースに特有な、固有な問題、国内・地域・グローバルなインターネットガバナンスの課題であったりとか、議論を先導して、まずは課題を発見して、その後解決するようにできたらいいなと、最終的な目標設定というのはそういうところにあるんじゃないかなというふうに考えています。

ここに到達するために、中間目標みたいなものをそれぞれ行動目標、成果目標という形で置いているんですけども、まず、行動目標のほう見ていただくと、まず、最初の目標としてユースが参画して議論することができるというところが、行動目標の何というんですか、一番最初の目標になるのかなと思っています。そこで、ユースが参画して議論をするというところがだんだんできるようになってきてから、さらに、その中でユースというものがプレゼンスを発揮することができる。こういうふうな会議の場にも参加できて、皆様のこういう議論に入っていってプレゼンスを発揮することができるというのが、行動目標のその次の目標になってくるのかなと思っています。

一方で、成果目標みたいなところで考えているのが、まず、課題を発見するというところが一番最初の目標かなと思っていまして、その後、発見した課題に対して、じゃあ国内とか地域、あとグローバルな課題を解決するというところで、それぞれ多分、違う課題であった

りとかがあるんだろうなとも思うんですけども、そこを解決していくというところが成果目標の②というふうになって、この行動目標・成果目標どちらも達成すれば、この一番大きく掲げている目標設定というところにたどり着くんじゃないかなというふうに私は考えています。

次のページをお願いします。この中間目標、先ほどの行動目標①、成果目標①と、左下、右下に書いてあったものを足して中間目標①みたいなところで記載しているんですけれども、この2つの目標を達成するために、じゃあどうするかというところが、先ほど、左のタブで見せていただいた活動のところに書いてあるのかなというふうに認識していました。

なので、恐らくここのJPNICの資料に記載があった活動というところで、2つ記載があるものだけ記載があると、なかなかユースは分かりづらいんじゃないかなというふうなものがあったので、行動目標・成果目標あるいは大きな目標であったりとか目的であったりとかというのも記載いただいてもよろしいのかなというふうに思っていました。

そういう前提で、私の頭の中にある上で、次のスライドに行っていただいて、先ほどの左のタブのところにあった資料を拝見した所感として4つ掲げてみました。

1つ目が、先ほどお伝えしたとおり、IGFが分かっている方向けに作成されている資料と感じました、みたいなところが私の1つ目の所感です。私個人の考えが大分あるので、合っているかどうかというのは一旦置かせていただくとして、そう感じましたというところが1つ。

あと2つ目が、どのようにしてユースを集めてくるかというところをもう少し議論する必要があるように思いました。恐らくこの次の話し合いの中でどんどん煮詰まっていくのかもなというふうなのは感じてはいたんですけれども、やることが決まったらどういうふうにじゃあユースを集めてくるのか、例えばここに記載があるような、ここで会議に出てくださっているような先生方の研究室の生徒に声をかけるだったりとか、あと、関連企業へ声がけを行うとか、あるいはenpitというふうな学術ネットワークがあって、そこでいろんな、サイバーセキュリティーだったりとかデジタルだったりとか、そういう教育プログラムをやっているんですけども、そういうところでIGFのこういう取組があって、ユースの活動があるよとかというふうな広報を行うであったりとか、あるいはIPAさんの中核人材育成プログラムみたいなものでも、こういうIGFの活動あるよ、とかというふうな広報をするとか、そういう広報の仕方みたいなのも考えなければいけないのかなというふうに感じていました。

あと、3つ目に関しては、ユースが参画することのメリットが見えづらいように感じました。例えば活動案としてあった勉強会に関しては、大学生向けの授業の単位として認める、何というんですかね、プログラムにしますよであったりとか、社会人向けのITスキル標準、これ総務省さんでやっていらっしゃると思うんですけども、その一つとして何か単位として認めるであったりとか、あるいは仕事の一環としてできるようなプログラムにするであったりとか、そういうふうな形で、非常にとても私もいいなと思う活動である一方で、入った後

に、どういうふうにその次に、役立てられるかというところも提示してあげれば、より参加しやすいようになるんじゃないかなというふうに感じましたというのが3点目。

4つ目、これが一番難しいようにも思うんですけども、仕組み化して継続的に参画できるような形にできたらいいなというふうに感じていました。恐らくこう、有志だけで参加したい人は来てねというふうなのでは息が長く続かない、サステーナブルにできないように感じたので、先ほどお伝えした、いろんなプログラムみたいな枠をつくって、何年か周期で、入学と卒業じゃないですけど、こうするような仕組みをつくって、研究したりとかしながら、継続的にユースが参画して、人材がプールできて、ユースの今回のプログラムを卒業した人が一定数、こういうIGFの議論の中に入っていくような、そういう仕組みづくりもできたらいいなというふうに感じていました。

こんな感じが私の、活動案を拝見して感じたところなので、皆様からもいろいろご指摘等々いただければと思っています。

以上です。

【加藤】　どうもありがとうございました。山崎さんのほうから、前回の続きで何かございますか。それともこの段階で、上田様に何かご質問とかあれば、皆さん質問していただければ……。

【上田】　そうですね、今もう直接、皆さんフレッシュなうちにコメントがあれば……。

【加藤】　続けていただけますか。

【上田】　言っていただいたほうがいいかもしれません。

【加藤】　分かりました。ご質問とかコメントとかございますか。――まさに本質的な、継続的にどうやってサポートできるかということとか、ユースをどうやって募集するかとか、大変重要なポイントと……、兼保さんお願いします。

【兼保】　兼保です。上田さん、ご指摘していただいた、まさに今、加藤さんからもお話ありましたこと、これらの点大変重要な点だと思っていて、特に、私は1点目に共感します。というのはやっぱり、IGFの間口がちょっと狭くなってメンバーが限られてきているその原因の一因になっているんじゃないかというのは、ちょっと懸念をしていまして、言葉遣いとか資料の作り方とかという、そういう本質的ではないところじゃなくて、ちょっとそもそも何を目的にユースを集めてくるのかというところを私たちちょっと、視点としてもう一度立ち返るべきだったなというふうに思います。それで、今回ご指摘いただいたようなことは大変いいことだなというふうに思いました。コメントです。

【加藤】　ありがとうございます。ほかご意見、ご質問ございますか。

なければ、また山崎さんからのコメントがあった後でも……、立石さんお願いします。

【立石】　もしあれだったら僕後でもいいんですけど。

【加藤】　いや、あればもうぜひ、前村さんも挙げていらっしゃいます、まず立石さん。

【立石】　今、お話いただいて、私も全くそうなんですけど、やっぱりサポートをどうするかという話があるかなと思っています。

それで、ちょっと、去年のこのIGFの10月（開催の事前会合）に高校生の女の子がたしか出ていただいていたんです。あれ、安心協、安心ネットづくり促進協議会というところが、高校生ICTカンファレンスというのをやっていて、そこでそういう話をしている子たちの中の1人で、大阪千里国際中高等学校……ごめんなさい、ちょっとはっきり覚えてないんですけど、今年もたまたま私、実は安心協の古いメンバーの1人だったんで、ただ全然出てなかったんですけど、久々に何というかな、対面の総会に出たときにこの話をしたら、その安心協がずっともう継続的に高校生のICTカンファレンスをやっているんですけど、ぜひそこをやっていきたいということを言っていただきまして、来年、そういう話もあるということであればなおいいということで、今その担当の安心協の事務局の方と、去年のその高校生の方がいたところの大阪千里何とか高校の先生と今話をして。

実は、8月の今月の末、27日に1回目があるので、それも今年は何かWHO、何でWHOかなと思ったら、WHOが携帯依存症を、ゲーム依存症というのを病気に指定したんですよね。それで、何かWHOが去年だったか、姫路でカンファレンスやったのがもともとらしいんですけど、WHOと一緒になって今年は取りあえず、そこを卒業している子たちがもう、あのICTカンファレンス自体もかなり古いんです、15期という形で、昔からやっているので、英語、大学生になって留学した子だとか、あの子たちがファシリテーターになって、自分たちでそういうことを考えるということを今もう既にやっていらっしゃるということで、それをIGFというテーマでやったらどうかという話で今、お話しさせていただいていて、8月中に1回目というか今年の分は終わっちゃうんですけど、来年に向けて、来年の2月か3月に次のをやって、またその8月にやってみたいな感じらしいので、日本でやりますから、ぜひという話で今私が橋渡しをさせていただいている状況です。

なので、その安心協がやっているICTカンファレンスというのは割と、今後もちょっと、高校生なので、あまりにもちょっと青田刈り過ぎるかもしれないですけど、でも非常に考え持っている方たちが多いみたいなので、期待は持てるかなと。

そうです、この今出していただいている、関西学院千里国際高等部というんですかね。これが例の、飯田さんがしてくださる、それは安心協が、総務省がかなり力を入れてやっているというところなので、面白いつながりになれればなというふうに思っています。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。前村さん、次の順番お願いします。

【前村】　ありがとうございます。先ほどのスライドを見せていただけるといいんですが、ありがとうございます。上田さんとても丹念に考えていただいていて、ありがとうございます。

1点目なんですかね、その1点目、2点目のあたりで、ユースがこの活動に参加する理由みたいなものをきちんと示せる必要があるというのは、とても何か重要というのか本質というのか、一番我々がこういうふうな、例えばユース向けに何か打ち出すということをやる、例えば2年前に、Gather&TalkというイベントをDotAsiaとの協力でやってみたことがあるんですけど、そういうふうなときにも、なかなかプレーンな言葉で、こういうふうなのをやってみたらいいと思うよというふうな提案ができなくなってきちゃっているなというふうに思うところもあるんですよね。

それで、2番目のところは、どうやってユースを集めてくるのかというところも割と似たようなもので、ここでは、コミュニティやJPNICに関与している先生の研究室からというふうなことで、もちろんというのか、そういうふうなアプローチをやるんですけども、そうすると、何となく、既存の考え方を脱却できないのかなとか、そうやって結構悶絶をしているところなんです。

それに対して上田さんから、クリーンに、どうなんでしょうねってこう澄んだ目をしたという言葉はたまに、あんまりよく響かないのかもしれないんですけど、それでもすごく、本質的に我々が考えなきゃいけないことを打ち出していただいているなと思って、ぜひともこの辺を考えながら、うまくやっていきたいと思いながら、ただ、ついつい手元でアクティビティーとしてやろうとしたら、いかにして、とにかく若い人を集めてきてどうやってプログラムを始めるかみたいな、そういうふうなオペレーショナルなことにどうしても巻き込まれがちなので、もう少しそのフィロソフィーというのか、どういうふうに考えるからこういうふうなことをやるんだというのを明確に定義する必要があるんじゃないのかなというふうに思いました。

兼保さんからのコメントも、私が思うようなそういうようなことの線上にいらっしゃるんじゃないのかなと思いながら伺いました。ありがとうございます。ちょっとコメントで取り留めなく、すみません。

【加藤】　ありがとうございます。本田さんお願いします。

【本田】　チャットで書いたとおりなので、そんなに、それ以外のことですけども、ユースが参加することのメリットというのは、それはメリットをどこに感じるかであって、別にそれはモチベーション次第なのでモチベーションを与えてあげる、要は何をやってもいいよという、その自由な主体性というとこに尽きるのではないかなと思います。SFCとか何かそれなりの大学を目指している人であれば、高校生であっても、そういう学外活動としての推薦とかの材料にはなるので、別にそれはそれでいいんじゃないかと、むしろそういうような中高生、大学生とか、いわゆる30代までがユースですから、そこの部分ももちろんなんですけれども、上は上で引っ張るとして、中高生のレベルその一番のエンゲージメントですよね、インターネットのエンゲージメントしている部分、一番初めて使い始める層からきちんとやるということが、本当のIGF、本当のインターネットガバナンス、真の4つのそれぞれのセクターが本当に参加した状態、理想形に近づくと思って、それを本当、やる意義とい

うのは大いにあると思います。日本ですとやっぱり教育委員会とかが強いので、そういったところをまず正攻法でエンゲージメントしていくというのも、重要な観点と思います。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。大変有意義な論点を皆さん指摘していただいているので、そういうものを踏まえて、山崎さんから今の検討状況のご報告、先ほどのページ戻っていただいて、また追加で何か皆さんご意見、ご質問あれば、その後にしたいと思いますが、山崎さんよろしいでしょうか。

【山崎】　これは実は、前回のそのままではなくて、上田さんの資料を見させていただいて多少盛り込んだつもりなのですが。

【加藤】　すばらしいです。

【山崎】　これを映しても、特に変わり映えがしなかったようですので、まだまだ足りない点は多いと思います。ですから、主に目的のところに、上田さんのポイントを盛り込ませていただいたんですけれども、あとは具体的な行動項目というのをつくりました。ただ、そうですね、本田さんがおっしゃるように、会議の1週間ぐらい前にポストして、それでコメントをいただいて議論というのが理想的なんですけど、ちょっとぎりぎりになってしまいましたので、まだまだじゃないかとは思います。ですので、あまりこれの説明に今日は時間をかけず、皆様からこのドキュメントへのコメントをいただいてから、さらにブラッシュアップをするというやり方がいいのかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

【加藤】　ありがとうございます。上村さん、手が挙がりましたが。

【上村】　すみません、上田さんご無沙汰しています。すばらしい整理でありがとうございます。

ちょっと忘れちゃうと思ったのでここで言わせていただくんですけど、某メーリングリストで、公共の教科書を調べたところ、インターネットガバナンスについて取り扱っているところが1件あったって話を紹介してくださった方がいらっしゃいましたよね。それで、今日ご参加の方にも、もしかして今日ご参加されているのか、ご参加の方もそのメールご覧になった人いると思うんですけど、あれを読んで思ったのは、私たちが教えたインターネットガバナンスを学校の先生に伝えるということも、ちょっとこれに関連して必要かもしれないなと思ったんですね。

なので、その先には子供がいるわけですけど、ちょっと先ほどの活動案の資料のどこかに教育セッションとかってあったので、そういう中で、実は学校の先生もきっと困っていると思うんですよ、いきなり教科書に入っていて何を教えていいか分からないということで。なので、そういう、ためになるようなことを盛り込んでもいいかなと思っていました。直接、今回のお話と関連するか分かりませんけど、忘れないうちにと思いまして、記録のために発言しました。ありがとうございました。以上です。

【加藤】　　ありがとうございます。ほか皆さんいかがでしょうか。もしコメントがさらにあれば、本田さん、お願いします。

【本田】　　手短に。山崎さん、あれ見せていただけますか、山崎さん資料出されたんですね、「建て付け」のところは。私は、理想形は多分独立して運営されるのが望ましいと思っています。なぜかというと、いわゆる本チャンというか、今つくろうとしているIGFのほうとユースというのは、やっぱり正確性とか目指す方向も若干違うので、極端なことを言うとユースIGFは理想論というか、大人でいえばおべんちゃら言って終わりでいいと思うんですよね。

ただ、それは、いい意味で、IGFに、インターネットガバナンスに影響を及ぼさないといけない、かなり多くのインパクトを残さないといけなくて、そこにはある程度緊張感があったほうがいいと思うんです。なので、そこはお互い相互不干渉ではあるけれども、きちんとお互い物申せる状態、言わば、会議、政府の何かの諮問機関みたいな感じでもいいと思うんですよね。

ユースIGFには、いわゆるビジネスというセクターがないですし、じゃあどうかというと、ある程度利用者層がメインなコアな部分になってくるんだろうけれども、そこのところで、大人にはない自由な発想で、やりたい放題のことが言いたい放題言えるというものがあるべきで、そのためには、いわゆる大人が何か教えてやるとか大人が与えてあげる活動の場というのではないところがやっぱり担保されているべきなので、もちろんそこの組織運営については、いわゆる大人とか、より年齢層の高いユースが主体となって関わるのは別に悪くないんですが、組織そのものとしても理想形はそうで、やっぱり日本はどうでしょう、まず、大人のほうもやらなきゃって話だけど、そもそも、利用参加を促進というところから始まっていくんじゃないですかね、と思います。長くなるのでこれぐらいにしておきます。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。今、実積先生からもコメントがありましたが、もし、実積先生、敷衍していただければ。情報処理学会にも、何か高校のプログラムがあると、先ほどの飯田さん、上田さんからも、IPAの中核人材育成プログラムというのも出ましたけど、そういうところと連携するのもあるんでしょうか。実積先生何かございますか。

【実積】　　情報提供だけなんですけど、高校の中で情報Ｉって必修化されて、今、教え方に関して各高校でやっているようです。さらに言うと、情報Ｉの教科書というのが4月にオープンになったわけなんですけど、その前の段階で既に教科書ガイド的なもの、今何か、アカオンか何かって言うらしいんですけど、そこに既に教え方という議論がある程度書いている本が出回っているそうで、入手できてないんですけど、何が言いたいかというと、そのIGFのことに関して高校の先生に教えてもらうというのは結構前広で動かないと、もう今年はどうせ間に合わないので、来年の授業には間に合わないなという感じはしています。

講義論を入れるのであればというお話で、さっき本田さんが高校生の自由なという、自由な場が必要で、大人がという話ありましたけど、高校生を相手にしてない、大学生しか僕は分からないんですが、大学生の話だけど、多分そういうことだと誰も手伝ってくれないというか、大学生は結構忙しいので、変な話、就活に役立たないことであれば頭を使いたくないということを考えると、かなり積極的にインセンティブを与えてあげなきゃいけないし、上田さんでしたか言われた、これを受けることに何のメリットがあるかということに関してはきちっとこうつけてあげないと、参加者が自分で学べたからいいだろうというふうなふわふわっとしたものであれば、多分、ほかのところに出たほうが、インターンに行ったほうがよっぽど彼ら、役立つと思ったりしますので。

それを特に今回新しい取組、制度として新しくないのかもしれませんけど、彼らにとって新しいものに参加することになるので、前どこかで意見言わせていただいた記憶あるんですけども、参加修了証みたいなものを出してあげるとかというふうにしないとやっぱり駄目だなと思いますし、それから、先ほど、情報処理学会のリンクつけましたけど、ああいう外に行って議論する機会を持たないと、この活性化チームの役割はそこまでない、そこまではカバーしてないということなんだろうと思いますけども、中で議論を進化させても結局じゃあIGFって何なのといったときに、数名私、ヒアリングさせていただいた結果でいうと、IGFの中でも、活性化チームの中でも、インターネットガバナンスの対象というのは全然一致しなくて、何だろうなとちょっと正直思っているところがあるので、上田さんの話の初めの、中身の定義というのをちゃんと決められて、IGF分かっている方向けに作成されているというところが、かなり本質だと僕は思っていました。

つまり、もう皆さん参加してる中でもうIGFが分かっていると思っているんだけど、きっと話し出すと違うこと言い出すわけですよ。なので、そこは合意をしないままに議論を進めておられる。それでもいいんですけど、IGFがそういう場だというんであれば。でもそれだときっと高校の先生とか高校生とかには分からないだろうなと。何やるんですかって、皆さんやりたいことやっていいんですよって言われた瞬間に、よく分からなくなって空中分解という感じになるので、外に展開されるときは、定義というか、何やってこれをやったらこういうのを得られるというのを出してあげないと、高校生、特に、先ほどSFCとか、その意識の高い高校生に参加をお願いするのであればさらに、彼らはもっと忙しいので、普通の高校生より。英単語覚えるよりこっちのほうがいいよみたいなことまでは言いませんけども、やるとこういうふうなメリットがあって、こういうふうなところへ名前が載って、ホームページに紹介されて、それこそ総務大臣とかと握手した写真が撮れるみたいなところまで含めたものを示してあげたほうが参加しやすいなというふうに思いました。

以上です。

【加藤】　　ありがとうございます。何かいっぱい、山崎さん、これ、大変深い意見のコメントがあったと思いますが、大体それぐらいでよろしいでしょうか。そういうものをさらに反映して、山崎さん次、さらにアップデートしていただけると理解しておりますが。

【山崎】　　はい、そのとおりにいたします。貴重なご意見、ありがとうございました。

【加藤】　　じゃあ、そろそろここで収束させていただいて、さっき堀田さんのお名前拝見したんですが、堀田さん参加されていますか。

【堀田】　　堀田です。

【加藤】　　ありがとうございます。先ほど上村先生からはプログラム委員会のご報告いただいたんですが、審査に関連したことは全部、堀田さんのほうからまとめてご報告いただけることになっていて、今ペンディングだったので、ちょっとそのフォローをしていただけるとありがたいんですが。

【堀田】　　ありがとうございます。

今、山崎さんに映していただいている資料とあと2つ、昨夜、資料をお送りしているんですけども、これは1つ目の資料で、テーマセッションの審査終わりましたという審査報告というか、審査結果の概要は7月23日頃だったと思いますけれども、もう皆さんにお送りしてこの4件を採用しました、ただし条件付ですということでした。条件というかフィードバックをしてそれが満たされるように頑張るということでした。

それで、この今映していただいているbのほうですね、ここについては、各セッション審査して、いいんじゃない、ということなんですけど、その中で、フィードバックがあり、こうするとさらによくなるとか、この部分はちゃんとしっかりやってもらうとか、そういう意見が出ています。これはこの資料の最後のほうに、各提案についてつけていますが、その方向づけを登壇者の方々と一緒に考えてつくっていくという人を1人ずつつけたほうがいいなと。1人ずつつけるというのは、活発化チームの中から1人つけたほうがいいだろうということにさせていただいて、この4つの提案それぞれについて、担当者というんですか、それを活発化チームから選びたいというふうに思っています。

それで、ここに書いてあるように、フィードバックの案を下のほうに示しましたので、それを参考に、これだったらお手伝いできるとか、ぜひ一緒にセッションの方向性考えたいという方には担当になっていただいて、提案者と一緒に考えていただくというのをやっていただければと思っています。詳細はここで時間がないのでお話しするのはやめますけども、この資料をご覧になって、ぜひ私これやってみたいというのがあれば、よろしくお願いします。

既に、本田さんのほうからは、これとかこれとかは担当していいですよという話を伺っていますけども、それ以外にも、皆さんから担当していいよって話があれば、そうですね、今週木曜ぐらいまでにいただけるとありがたいですね。8月4日の木曜までに、ここを担当していいですよというような話を伺えれば、担当いただくということで割り当てを決めたいというふうに思います。よろしくお願いしますというのが、1つ目の資料の話です。

まずじゃあ、この範囲で何かご質問等あればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょう。そうですね、(メーリングリストの)825です。

【加藤】　　よろしいですかね。じゃあ、8月4日をめどによろしく、手を挙げていただけますようお願いします。

【堀田】　　次の資料では、1－2という資料が、山崎さんお願いできますかね。1－2のテキストの資料ですね。IGF2021(メーリングリストの)の826という、メールでお送りしたテキスト資料です。ちょっと表示できないですかね。

【山崎】　　ちょっとお待ちください。資料はつくりましたので、ちょっと表示できてないだけなので、30秒、15秒ほどお待ちください。

【堀田】　　これです。IGF2021の826という資料と同じものです。審査委員会というのをプログラム委員会の中に設け審査をしたわけですけども、その中で、次回へのフィードバックということで課題が抽出されたのがあります。各提案に対するフィードバックというのは先ほどの資料の中に埋まっているんですけども、そうじゃなくて、全体として審査をするに当たり、もしくはプログラムを構成するに当たり、こういう点は次回気をつけたほうがいいね、というのが出てきていますので、この資料にまとめています。

それで、プログラム委員会もしくは審査委員会自体で、中で解決すべきものについてはまあいいんですけども、活発化チーム全体として考えていただいたほうがいいということが幾つか出てきていますので、簡単にご紹介します。この資料自体は残しておいて次回生かすということなんですけど、簡単にご紹介させていただくと1－1にあるように、まず公募について、少しやっぱり遅れたところが、スタートが遅れたところがあって、そのために、審査のところが少し寸詰まりになって、提案側にすると、提案内容を深める時間が短かっただろうし、審査側からすると、審査委員会での議論というのが少し、本当は時間を取ってやりたかったんですけども、1回こっきりの一遍の時間にしかならなかったということで、公募時期を早めたほうがいい節があります。

2については、これも重要な点ですが、審査の中で指摘されたんですけども、将来のIGF、例えばIGF2023で、日本から出すテーマの柱を何にするのかというのを考慮した上で、プログラム構成するのがいい、テーマセッションの柱にまとわりつくようなテーマになるといいねって話がありました。ですから、何というんですか、審査そのものではないんですけど、日本としてこういう点を知らしたいというところを明らかにして、それにまとわりつくようなテーマを募集できるといいねという話であります。

それから3点目は、これも活発化チーム全体として考えなきゃいけない話ですけど、例えばこの秋のイベントに参加いただきたい人たちはどういう人たちなのか。例えば初心者に広くIGFというのを知ってもらいたいのか、あるいは少し深い議論をしたいのかみたいな話は、もう少し最初の段階で詰めておいたほうがよかったねという話がありました。

あとは、これ4番は活発化チームだけの話じゃないんですけど、全体にやっぱり、今回4件出てきていますけど、大体知っている人の名前だったね、みたいなことで、どうしても内輪感があるイベントになりかねないという危惧がありますので、もっといろんな人が発表で

きる、手を挙げられるような、提案できるようなチャネルなりテーマ設定なりができるといいなという話で、あとは細かい話なのでここでは省略します。

以上が、特にポイントとなった意見だったかなというふうに思います。じゃあ、この場で皆さんからご意見なり、審査委員会に、審査に携わった方々から、いやこういうのも大事だね、というのがあればお願いできればと思います。

【加藤】　ありがとうございました。皆さんいかがですか。どれもごもっともで、そういうことを議論しようと毎年しながら、なかなか決まらないまま、プログラム委員会にお任せみたいになったような気がしますが、ぜひ、少しずつも改善しながら進めればと思いますが、特に、よろしいですか。堀田さんどうもありがとうございました。

【堀田】　ありがとうございました。

【加藤】　お疲れさまでございました。

それじゃあ、アジェンダに沿って進めさせていただきますが、飯田様、そろそろご参加になりましたでしょうかね、まだでしょうか。もしまだであれば、この議題案に沿って次、チーム会合の運営についてですけれども、これ……、ごめんなさい、飯田さんのところから何か今……。

【総務省加藤】 すみません、まだちょっと、もう少しかかりそうです。

【加藤】　分かりました。じゃあもし参加されたらまた、そのときチャットなりでお知らせいただくということで、チーム会合の運営に関して、本田さんから幾つかのコメントをいただいていたと思いますが、本田さん、お待たせしましたというか、この件についていろいろとコメントいただいているんですが、ご説明いただけますでしょうか。本田さんおいでにならないですか。ちょっとお待たせし過ぎましたかね。

【山崎】　ちょっと、参加者の中に本田さんが見当たらないですね。

【加藤】　割とさっきまでいらしたんですけどね。

【山崎】　ついさっき退出されたんじゃないかと思いますが。

【加藤】　そうですか。じゃあ、何かすごい緊急性があるということなのかどうか、あれだったですが、申し訳ないですが、もう1回、それじゃあ今日の結果を踏まえて、コメントがあったので次回までに、もう一度ご提案なりご意見なりを、できれば本田さんいないところであれなんですが、この議事録のところにコメントというよりは、もう一度このご提案の内容があれば、このメーリングリストに明確に出していただいたほうがいいのかなというふうに思いますね。チャーターの変更とか、それから、今まで進めてきた例えばプログラム委員会や、そういう委員会組織を変えたほうがいいとか、そういうご意見がありましたけれども、その辺も、ご趣旨をもう一度ご説明いただいた上で、具体的な提案なりポイントがあればそれをいただくということで、当然今日から次回までの間にご意見いただければと思いますし、必要に応じて、次回のこの活発化チームのミーティングで議論したいと思います。

ということで、飯田さんいらっしゃるまで、何か今日、付け加えることとか言い足りなかったこと、皆さんございますか。特にユースに関しては非常に有意義な議論があって、多分ユースをどうやって守り立てていくかというのはIGF活動をどうやって裾野を広げながら守り立てていくかということにも非常に重要な要素が出たと思います。

【上村】　上村ですけど、よろしいですか。

【加藤】　お願いいたします。

【上村】　プログラム委員会に関連して、一つまた、この場でご意見をいただければと思います。飯田さんいらっしゃるまでの場つなぎで構いませんので。

【加藤】　お願いいたします。

【上村】　先ほど堀田さんからもありましたように、4つのセッションが立つことになりました。山崎さん、セッションの一覧の載っている資料ですかね、各テーマの今後の進め方についての資料でいいと思いますけど、それを見せていただきたいと思います。それ4つになりました。

それで、前回、この場でもお話をしたかと思いますけど、プログラム委員会の中で、3つぐらいメインセッションの方向性として提案がありました。1つが、DFFTなど様々なステークホルダーが話せるようなデジタル化の話題、2つ目がメタバースにおけるインターネット利用の問題を考えるというもの、それから3つ目がハードコアな、ウクライナ問題に端を発したようなネットの分断化とか、そういった話題ということなんですけど、現在、4つの提案を眺めると、そのプログラム委員会の中で、こんなアイデアがあるかもねと話していたものが、全く同じではないにせよ、一部、メインセッション、テーマセッションの中で取り上げられるようなことになっているような感じがするんです。

なので、それを踏まえた上で、メインセッションでどんなことを期待すべきと思われるのかということについて、上田さんに言わせると、専門家、玄人過ぎるレトリックって言われそうですけども、どんな方向でメインセッションを立てるのがいいか、皆さんのご意見をいただきたいと思いますが、どうでしょう。

【加藤】　上村さん、ちょっと声が途切れるので、画面を消していただいたほうがいいかもしれないです。お顔を消していただいて……。

【上村】　ちょっと3つのテーマについてあまりはっきりした資料がないまま意見言えというのも難しいと思いますけど、どんな方向感のメインセッションをするのが望ましいかということで、何かご意見があれば、お願いします。ちなみに、次のプログラム委員会でこの話は決着させたいと思っているんですけど、その参考にもしたいと思いますので、何かありましたら、プログラム委員の方々でも構いませんのでお願いします。

【加藤】　もし皆さんが何もなければ、今、上村先生が言われた3つ目の、ウクライナとかの情勢を見てネットの分断だとか、戦争のときにどうやって表現の自由やインターネッ

トへのアクセスを確保するかとか、今、もうお茶の間で身近に感じられるようになっちゃいましたけど、そういうことを取り上げるのかどうかというふうに、私思ったんですけれども、さっきの上田さんのコメントと同じく、これが一般の人にも非常に分かりやすい内容で、あまり専門的にならないようにすることを考えると、そういうことをインターネットの専門家というよりもう少し広い目で、こういうことを追っていらっしゃる、いいスピーカーがいないのかなということなんですけれども、このテーマを選ぶときにいいスピーカーがいるかどうかということともタイアップするんですけども、その辺がなかなか私も出てこなくて、こういうことをしゃべってくれる人がいるといいなと思ったんですが、それがうまく結びつかないというのがちょっと今悩んでいたことです。

すみません、実積先生、手を挙げていただいたので、よろしくお願いします。

【実積】　すみません、実積ですけど、これは今、上村さんにちょっとお伺いしたんですが、これはオープニングセッションをどうするかというアイデアですよね。オープニングセッションって、木曜日の3時からというスタートのセッションをどうするかってアイデアということなんですか、今聞かれているのは。

【上村】　多分そういうことになると思います。

【実積】　そうすると、3時から聴ける人というのは、誰が聴けるのかなというのを考えないといけないと思うんですけど、2つ多分考慮していただきたいことがあって、頼むことばかりなんですけど、みんなが出られる時間帯しか普通の興味がそれほどないというか、ちょっと聴いてみようかなという人が聴ける時間のセッションが多分重要なんだろうなというふうに思っています。

それで、ほかのセッションのまとめを何となくするみたいな意見が確かあったかと思うんですけど、聴くほうから見たら2日間とも出るというのは、このテーマをずっと追いかけている人というのは2日間出ようと頑張ると思うんですけど、ちょっと興味あるかなという人は、多分、メインセッションだけ聴いて、メインなのでメインだけ聴いて、あとはもういいやという人が多分多いんだろうなということを考えると、メインセッションの中で、IGFは何かというところ、僕らは何をしているんだというところを含めるようなものを入れていただければ、あとはその導入のネタとしてキャッチーなものは何でもいいというか、それこそ戦争でもフェイクニュースも何でもいいというふうに僕は思いました。

ポイントはどの順番で置くかというのが多分大事な話で、1日目の3時からだと、多分聴く人は、さっき上田さんの話じゃなかったけど、その興味ある人だけ、何かプロ向けになっちゃうので、オープニングセッションとしての役割がみんなに対して周知というのを仮に含むのであれば、そこに置くのはもったいないかなという感じはしました。

以上です。

【上村】　ありがとうございます。特に返す言葉はないんですけど、オープニングと言いながら初日の夕方とかそういう折衷案みたいなものがあるかもしれませんし、もしかする

と、同じ日にオープニングとクロージングをやるという、＜聞き取り不能＞目的な内容をするということもあるのかもしれないなと思って話を聞きました。

【実積】　　可能であれば多分録画されると思うので、授業でちょっと使えるようなぐらいの長さのフォーマットで、ここだけ聞いてればIGFって何か分かるというのがあれば何か使いやすいかなって感じはしています。

【上村】　　それは、その、地ならしセッションと言っていたものに対する注文ということですかね。

【実積】　　地ならしでも何でもいいんですけど、全部のセッションを全部聴かないと分からないというものだと、多分素人には分からないので。全部のセッションを5分ずつまとめるというのは、多分事務局が死ぬと思うので、であればどこかのセッションでIGFとはこういうことでというのが分かるような、切り取れるようなのがあればいいなと思っただけです。現状だと、学生にIGFが何か説明できる資料が全然ないので、とても困るというような現状なので、それがちょっとでも改善されればいいかなと思っての発言です。

【加藤】　　ありがとうございます。

上田さん、お手が挙がっていらっしゃる。

【上田】　　すみません、2点釈明を、と思って発言させていただきます。

もちろん、皆様がおっしゃっていた、ご理解いただいた上でご発言されているかなとは思うんですけども、もちろん、プロ向けのセッションとそうでない人向けのセッションというのも、それぞれにそれぞれ役割とよさというかがあると思うので、多分今回のメインのオープニングセッションの話で言えば、プロ向けではない人向けなのかもしれないですけど、もちろんプロ向けのセッションもあってもいいというか、むしろあったほうがいいと私は思うので、その辺をちょっと1点釈明させていただければと思っています。

あと先ほどの話に戻って恐縮なんですけども、山崎さんが作成いただいたユースの活動のあのドキュメントは、一番最初の初期のバージョンだと思って、私はお話ししていたんですけども、更新していただいていたというところで、すみませんという釈明です。

以上です。

【山崎】　　山崎ですけども、いや、ぱっと見、変わり映えしないというところでもう既に駄目だという……。

【上田】　　いえいえ……。

【山崎】　　そこはもうちょっと練りたいと思います。

【加藤】　　あと、よろしいですか。特に、今の実積先生のポイント、プログラム委員会の中でも、そのチュートリアル的なものをやるのかどうかという議論もたしかあったと思うんです。だから、若干そのチュートリアルというかIGFとは何かというものを学生さんにも

説明できるということになると、その辺をもう一回ちょっと考慮したほうがいいんですかね。上村先生どう思われます？

【上村】　　伺ってすぐに答えは見つからないんですけど、確かにチュートリアル的な要素もと言っていたので、その言った範囲においては実現すべきとかいう、すごい答弁みたいな、思いつかない……。

【加藤】　　メインセッションって考えると何かこう引きつけるテーマみたいなように思っていたのと、またちょっと違うと思うんですよね、実積先生のポイントというのは。その辺ちょっと次回もう一回プログラム委員会でもんでという感じですかね。

【上村】　　そうかもしれません。

【加藤】　　ありがとうございました。他いかがですか。

何度も伺ってあれですけど、まだ総務省さん、飯田さんが出席になる気配はないですかね。あと十数分になりましたけれども。

【総務省加藤】　すみません、総務省加藤です。そうですね、ちょっと外出しておったんですが、そこは今、出発したということでは……。

【加藤】　　そうですか。

【総務省加藤】　すみません、これって何分までとかというのは……。

【加藤】　　ええ、7時までというのが一応、皆さんで予定なので……。

【総務省加藤】　それで最後は……。

【加藤】　　もうこれが最後になりました。

【総務省加藤】　ですよね、分かりました。あと5分ぐらいはちょっとかかってしまう……。

【加藤】　　分かりました。

【総務省加藤】　もし差し支えなければちょっと私の方から……。

【加藤】　　いやもうぜひ、さわりだけでも結構ですのでスタートしていただければと思います。

【総務省加藤】　すみません。私、総務省の国際戦略局の加藤です。先ほどお話ししたようにちょっと、2週間前に来たというところで、皆さん方と初めましてということ、かつ相場感もなかなかまだつかめてないところでありますけれども、ちょっと私のほうで9月に日本開催に向けて、国連のIGFの視察団が来るという話が今ちょっと中身を詰めておりますので、その状況についてシェアさせていただければと思っております。

視察団が国内の候補となる会場を複数視察後、7日と8日、それぞれ水曜日と木曜日なんですけれども、この日は東京に滞在する予定としておりまして、東京近辺で関係の方々に会っていただくことを想定しておりますので、まさにこのコミュニティの関係者の方々ですと

か、それから総務省の、うちの幹部も含めてですけれども、そういう面会を予定しているかなということです。スケジュールとしては大体そういったことで決まりつつあるというような状況です。

今、私が持ち得る情報はそのようなあたりなんですけれども、何かご不明点ございますでしょうか。

【加藤】　ありがとうございます。加藤さんもし、まだお決まりでないのかもしれませんが、2023年の実行委員会のようなものを何かご検討なのかどうかという、その辺は。飯田さんから前回そういうものをつくるというお考えを伺ったんですけど。

【総務省加藤】　それはまさに、その話を飯田のほうからというふうに私もちょっと思ってたんですけども、つくる方向でということかなとは思っておりますけれども、ちょっとその立てつけを、要相談かなと思っているんですが、すみません、ちょっとその辺りは飯田のほうからしゃべってもらったほうが適切なような気がしております。

【加藤】　分かりました。ありがとうございました。チャンゲタイさん以下ご一行の情報とか、今の開催地の候補ということを伺って、皆さんのご質問、いかがですか。

【前村】　前村ですけども、ありがとうございます。チャンゲタイさんご一行でいらっしゃったときには何かしら、その週、ご挨拶できるような準備とかしておいたほうがいいんですかね、という、何かすみません、雑駁なことで恐縮なんですけど。

【総務省加藤】　そうですね、特に東京に滞在する……、基本的には全部の日東京には滞在するんですけども、7日、8日あたりは少しちょっといろんなご相談を含めてさせていただくことがあろうかと思いますので、またちょっと具体的には追ってご連絡させていただければと思います。

【前村】　河内さんの手が挙がっていらっしゃる。

【加藤】　河内さん、お願いします。

【河内】　すみません。さっきもちょっと報告のときに話のあった、今年のIGFでの来年の宣伝活動じゃないですけど、今の状況を考えると、日本からエチオピアに実際に物理的に行くのは結構難しいかなという気がしていまして、それでもどなたか行かれるのかどうか分からないですけども、行ったとしても大勢行けない可能性高いので、その状況でリモートも含めて、来年の東京の準備について、今年のIGFでの準備とかその後の準備とか、そこら辺をよく今から相談しておいたほうがいいかなとちょっと思いました。すみません、ただそれだけです。

【加藤】　すみません、河内さん、それは先ほどの実行委員会なりという形じゃなくてもっと早く、インフォーマルにでもという感じですか、ご相談というのは。

【河内】　いや、そんなことないんですけど、せっかく、事務局だけ来られるので、そのほかのMAGメンバーがいるわけじゃないので……、内々によく話をしておいたほうがい

いかなと。要するに、エチオピアの人とかほかのアフリカの人たちがいる前で、もう多分行けないよね、みたいな話ってできないんです、公に。それで、せっかく事務局だけ来るのでそこら辺をよく話し……、そんなこと言いながら、チャンゲタイさんもアフリカの人なのであんまりちょっと言いにくいかもしれないですけど。

以上です。

【加藤】　ありがとうございます。その辺はMAGがうまくコーディネートしていただくということで。（笑）

飯田さんがいらしたようですので、お待ちしておりました。お暑い中、駆けつけられてたんだと思いますが……。

【飯田】　すみません、ちょっと前が延びてしまいました。

【加藤】　今、加藤さんから、チャンゲタイさんご一行がいらっしゃる概要を伺いまして、それについてのことと、あと実行委員会の準備状況といいますか、今、総務省さんのほうでいろいろお考えな状況を伺って、それでこのグループとしても何をやるかということとも結びつけたいというところで、お待ちしておりました。お願いいたします。

【飯田】　恐れ入ります。まず、IGF事務局、チェンゲタイ、アーニャをはじめとして、総勢5名だと聞いていると思いますけど、9月3日から日本に来てもらうことになっています。先ほど加藤補佐のほうからお話ししたと思うんですけども、9月の7日、8日に東京で関係者との面談というのを希望していまして、今、こちらの活発化グループの皆さんとも、もちろん全員おそろいになるのは難しいかもしれないんですが、やはりインターネットガバナンスコミュニティとして、今こういうふうに活動していただいているということをお話しいただいたらいいんじゃないかなと思っていますので、ご都合つく限りで、7日、8日のどこかで一度打合せを持っていただければと思っています。

それ以外には、もちろん総務省に来てもらったり、あとは、関係者のところを回ったり、それ以外に、7日、8日の前は、会場候補地を回ってもらうことになっているんですけれども、そういう形で彼らも一応そのチェックリストみたいなものがありまして、日本の準備状況をチェックして帰ってから、9月中には正式な最終決定の通知が来る予定になっています。それをもって、今の内定状態が本当に最終決定されるということになるんだと思いますので、そこからは別に今、何も遠慮しているつもりはないですけど、遠慮なく言えるようになるということになります。

実際にあと、来年のIGFに向けては、今、この活発化チームで活動し始めていただいたときに、一つは日本のコミュニティとしての持続的な、組織的かつ持続的な取組を形に、もう一度立て直していただくというのはちょっと言い方おこがましいですけども――ということと、あと2023年のIGFを成功させるということで、これについては、もちろんこのテックというかインターネットガバナンスコミュニティがメインプレーヤーと考えつつも、マルチステークホルダーという意味では、ガバメント以外にもアカデミックとかシビルソサエティと

か、実は今その縮図にもうなっているとは思うんですけれども、いろんなところに声をかけながら、実行委員会と呼ぶのか協議会と呼ぶのか何と呼ぶのか、まだこれからですけれどもつくっていかなきゃいけないと思っています。

それで、時間がかかるし、いろいろ手順を踏まなきゃいけないということもあると思いますので、まずは、発起人みたいな方に集まっていただいて、本当に小さなグループかもしれませんけど、その旗揚げをしていただいて、可能であればその発起人という形でそのミッションが来たときにお披露目するというのもあり得るし、そこまでもし行かなくてもそういう動きを紹介して、10月のイベントのときにはそれなりの形が見えてきているのが望ましいのかなと思っています。

当然そこには、総務省として下支えをして、かつ、財政的なことも含めてしっかり貢献をしていくということで考えておりまして、簡単ではなくて財政的なところも今悶絶しながらやっている状態なんですけれども、政府側は政府側でしっかりやりたいと思いますので、この実行委員会も幅広く、今、準備の議論の中で、インターネット関係者をみんな集めるというふうな話から始まっているんですが、実は今や世の中インターネット関係ない人はいないんだろうということで、ありとあらゆる人に参加してもらえるような、それこそインクルーシブな活動体として発展していってくれればと思っています。

ただ一方で、この協議会か実行委員会というのは2023年を遂行するのが目的ですので、それが終われば、何らか形を変えるなり終息するということになると理解しています。その中から持続的に残っていただくのは、活発化チームが法人化するのかどうかはお任せすることだと思いますけれども、形をしっかり整えて持続的な活動をしていっていただいて、願わくばその23年のいろんな成果をその後、世界のインターネットガバナンスの発展に役立てていただくその主体になっていただくということが理想なのかなと思っています。

ということで、今ミッションの準備とあと予算の要求とかをやりながら、その実行委員会の立ち上げに向けて、中で議論をして、皆様の中ともご相談をこれからどんどんしていこうというところですので、また、ミッションの準備に当たっても日程調整とかいろいろさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、ジュネーブのIGF本部のほうは多分河内さんのほうからMAGの状況とか、お話があったと思うんですけど、今セッションの選考がまだ出てきてない状態ですので、また、秋以降になるといろいろセッションが決まり、あと……、そういう中で進めていくということになると思いますので。

あまり長くなってもいけないので、今日は以上とさせていただきます。どうもお待たせして大変失礼いたしました。ありがとうございます。

【かと】　どうも飯田さん、お忙しい中ありがとうございました。ご質問、ご意見ございますでしょうか。皆さんよろしいですか。

かなり今まで伺いたかったこともクリアになって、進めていただいて大変ありがとうございます。飯田様からもう付け加えとかございませんか。あと数分が予定時間なんですが。

高松さんから手が挙がっておりますが。

【高松】　すみません、ちょっともう1点だけ、時間がないところ申し訳ないんですけども、今のご説明、実行委員会というか協議会というか、そちらのほうの、結局総務省はホストとして関わるといったイメージでよろしいのでしょうかというのと、あと実行委員会のほうがまたちょっと立ち上がらないと分からない部分あるのかなと思ったんですけど、IGF 2023のオーバーアーチングテーマ、あれを考えるのはホストである日本政府というふうに思っていてよろしかったでしょうか。

以上です。

【飯田】　ありがとうございます。協議会なり実行委員会はやはりIGFですので、こういう言い方、適当じゃなかったら申し訳ないんですけど、民間主導で立ち上がっていただく形に見えるのが当然望ましいと思っていまして、総務省は下支えをする立場と思ってはいますが、当然いろんな準備ですとか、いろんな連結部分ですとか、実際には音頭を取らせていただきつつ、OBなんかも必要に応じて関わりながらつくっていくのかなと思っています。

それと、オーバーアーチングテーマなんですが、基本的にはやはりMAGのほうで議論されると思うので、日本として出していきたいものというのは、これはもちろん総務省でも考えますが、最終的には、活発化チームとも相談しながら、形式的にはその実行委員会を通過して出ていくというのが望ましいんだろうと思っています。

【高松】　ありがとうございます。

【加藤】　ほかの方いかがでしょうか、ご質問は。もうございませんか。

それじゃあ、本当に今日は皆さん、お忙しい中ありがとうございました。予定された議題はこれで全てカバーしたと思います。もし皆様のほうなり、皆様ご質問あればまた、メーリングリストでやっていただくということで、次回は8月22日の月曜日がちょうど3週間後ということで、そのとき引き続きやりたいと思いますし、その間もいろんな連絡、ちょうどお盆とかございますけれども、連絡事項やご意見等あればまたメーリングリストでお願いしたいと思います。

どうも今日は長い間、大変ありがとうございました。ぜひ、夏、暑い中をみなさん乗り越えて、よろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

【上村】　お疲れさまでした。

【飯田】　ありがとうございました。

【加藤】　すみません、本田さんの手が挙がっていたんですが、時間切れで。

【本田】　　すみません、一言だけ。こういう言い方したくないんですけど、別にその打合せが悪いということは思わないんですけど、プログラム委員会のほうで分けてやったというの、今回すごくうまくいって審査も非常にうまくいったんですね。

どういうことかというと、組織化論とかいろいろ議題あるのは分かるんですが、それ、やっぱり小委員会制にしたほうがいいのではないかと私は思っています。簡単に言うと昔のIGCJみたいにしませんかということです。要は、組織化とかそのところ、ハンドリングの議論ばっかりをやっていて、本質のIGFのところの話とか、今日なんかちょっと長めにやってくださったんですけど、MAGからのそういう情報連携とかそこのところのトピックの扱いをもっと、僕としてはやってもらいたいなと、そういう意見がありますので、細かいその組織とかプログラムとかイベントとか、そういう細かいことは各小委員会でやっていただいて、この本会合というか全体会合のほうは、そういう、今現在のIGFのトピックを拾うとかそういうふうにちょっとしていただいたほうが有益なのではないかという意見があります。これについては、特段何かコメント等は不要です。

【加藤】　　ありがとうございます。すみません、もう皆さん、退席された方もいらっしゃいますので、今の本田さんのコメントは引き続き検討させていただくということで、今日は本当にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

では、これでお開きとさせていただきます。ありがとうございました。

以上